

# 素敵な人生 素敵なパートナー

6月23日～29日は男女共同参画週間です



男女共同参画  
推進懇話会委員  
平野 正憲  
(市認可保育園園長会)

## 保育園と男女共同参画

合志市の認可保育園は14園あり、平成19年5月現在の定員は、1,300名で1,293名のお子さんが入園し、保護者の方々の「社会参加(就労保障)」と「子育て」の両立支援施設として活動しています。

折しも市は合併以来『子育て支援日本一のまちづくり』を目指し、人口も定住拠点都市づくりによる住宅着工増とともに若い世帯が増え、多様な保育ニーズが高まっています。つまり、男女共同参画の望ましい社会を形成するためには、保育園の機能が充実し、利用者である保護者(父母・祖父母・地域住民)の皆さんから信頼され得る良質のサービス提供が必要なのです。

そのために合志市認可保育園園長会ならびに保育士会は給食部会も含め、「しつけ」や「食育」などに取り組んでいます。そして保護者の方々の仕事の多様性

に即応するため、通常保育のほか、延長・一時・休日・障害児保育、子育て支援センター活動による育児相談、仲間づくり支援、そして学童保育等多様な子育て支援を各園の保育士専門家集団が真心をこめて日々実践しています。

このような保育活動は、男女共同参画推進懇話会で作成し、市長に提出した「男女共同参画まちづくり条例(草案)」第13条(職業生活と家庭生活等との両立促進)第1項「市は、子育て支援と次世代育成支援に積極的に取り組む」の目標実現の具体的な施策であります。

また、市子育て支援課発行の『合志市子育て支援ガイドブック』には「お産から子育て上の多様なサービス・医療等の支援制度」が網羅され、市民にわかりやすい情報源となっています。しかし、保育園を始めとする多様な子育て支援施設は、あくまで援助機関であり、ここで社会が確認すべき重要な点は「子育ての主体・責任者は、やはり親その他の保護者である。」ということです。

望むべくは男女共同崇高なる息の長い協働作業によることが、喜びも大きいのであります。

市内各学校でALT  
(英語指導助手)  
として子どもたちに英語を教えています。



Daniel Baker  
(ダニエル・ベイカー)  
出身地：カナダ ウィニペグ

ちょっと

# CHAT time

In January, my parents visited Japan. In only 3 weeks, they went to Osaka, Kyoto, Nara, Takayama, Fukuoka, Hiroshima, and Kumamoto. They really enjoyed their time here, and enjoy telling their friends in Canada about their vacation. I would like to tell you their favorite story from this trip.

When they were in Hakata station, my mother left her bag near a bench. She was very upset, because her wallet, her JR train pass, and her passport were all in the purse. Because nobody who worked at the train station understood English, they didn't know what was wrong. When my parents were trying to explain what happened, an old Japanese man came and told my father that he spoke English, and that he could help them. He helped my parents explain to the officers what was wrong. The next day, he went back to the train station alone to check if they found the bag. When they found the bag 2 days later, the man told my parents. When my family went back to the station to get the bag, everything was still inside it.

In Canada, lost bags are not usually returned, and people don't always help each other find things that are lost. When they thanked the man for helping, he told them that the most important thing was that they have a good time on vacation in Japan. He said that he was worried that my parents' vacation would be ruined if they didn't have a passport. But, because of the kindness and honesty of people in Japan, especially the old man in the train station, the vacation was saved.

1月、わたしの両親が日本に来ました。たった3週間でしたが、大阪、京都、奈良、高山、福岡、広島、熊本を回りました。両親は日本での滞在をとても楽しみ、帰ってからもカナダの友達にこのことを話して楽しみました。今回は、この旅行にまつわるとっておきの話をご紹介します。

両親が博多駅にいた時のことです。母が、ベンチのそばにバッグを置き忘れました。その中には、財布や切符、パスポートなどすべての物が入っていたので、とても慌てました。しかも駅員さんはだれも英語を理解してくれず、何が起きたのかもわかりませんでした。それでも一生懸命駅員さんに説明しようとしていた時、ある老人(日本人)がやって来て父に言ったのです。自分は英語が話せるから、何かお手伝いしましょうかと。

そこで、彼は駅員さんに事の次第を説明してくれました。しかも次の日、バッグが見つかったかどうか駅に一人で出向いてくれたのです。2日後、彼はバッグが見つかったことを教えてくれました。両親がバッグを受け取りに駅に行き、確認してみると何とすべての物が中に入ったままだったのです。

カナダでは、落とし物は普通戻ってきませんし、人々が落とし物を捜すのを手伝ってくれるとは限りません。

両親が彼に感謝の意を述べると、彼はこう言ったそうです。日本での旅行を楽しんでもらえることが一番なのだ。さらに、あなた方の旅行がパスポートをなくしたことでだめになるのがとても心配だったと。

日本人たち、特にあの駅での老人の優しさ、正直さのお陰で、わたしの両親の休日は救われたのでした。



市指定文化財  
竹迫観音祭  
(竹迫上町・下町・横町)  
祭日 7月10日

# こうし 歴史発見!

第3回

毎年7月10日の夕方から、竹迫の3町で行なわれます。木製のドランジャーと呼ばれる台車に太鼓2張りを乗せ、赤い幔幕を張り、行灯をともし、太鼓を叩きながら各町内の若者が引いてきます。各町のドランジャーが中町の三差路で合流する様は勇壮で、3台が連なり竹迫観音堂へ向かいます。往路は笛による「槍巻き」の音色で竹迫の町内をのぼり、観音堂を数回巡って奉納し、帰りは「道楽」の曲にかわって各町内へ戻っていきます。

この祭りの起源は、鎌倉時代(約800年前)に、竹迫地頭職であった中原師員が国家安全を守るため観音祭の行事として始めた「風流盆踊り」が始まり、後に「馬頭観音信仰」が結びついて現在の形が出来たのではないかと考えられています。祭りは竹迫氏から合志氏時代へと受け継がれ、加藤清正公への献上馬産地の祭りとして、その名を高めました。その後、地元住民の手で守り続けられ、祭りが行なわれない年はなかったと伝えられています。今では農業、産業振興や交通安全を祈願する祭りとして年々一層の賑わいを見せています。 ※ドランジャー……竹迫の昔の方言。 “ドラ”は「大太鼓」、”ン”は「の」、”ジャー”は「台」を意味すると思われま

## 文化財保護委員会から



市文化財保護委員会  
石原 信二  
(すすかけ台)

昭和30年に就職し、夏休みに京都・奈良地方の古刹(古いお寺)の仏像研修に行った時の感動が今なお心に焼きついていてます。そのとき初めて文化財に接しました。その後、美術副読本編集のために、県下の文化財資料収集と撮影に各地を巡りました。郷土史への興味から、7年前に文化財保護委員を引き受け、現在に至っています。合志市には、太古の昔からの祖先の生活の営みの跡が残されています。それらに触れると、連続と続いてきた命の連鎖を実感させられます。子どもたちも郷土の歴史を学ぶことで、故郷への愛着が芽生えるのではないのでしょうか。皆さまも時には古に思いを馳せられてはいかがでしょうか。

## 7月は

### 「社会を明るくする運動」 強調月間です

さまざまな犯罪、いじめや不登校、ひきこもりなどが大きな社会問題となっています。

これらは、住民同士のふれあいや親子の対話が減り、急速に社会の機能が弱まったことが原因だとも言われています。

このような中で、大人も子どもも夢を持って支え合って生きていく明るい地域づくりを目指すために、7月を強調月間として「社会を明るくする運動」が全国的に展開されます。

市でも非行や犯罪のない明るい社会を築いていくために、関係団体と協力し運動を推進してまいります。

皆さんのご理解とご協力をお願いします。

#### 問い合わせ先

総務課 交通防災班  
☎(248)11112

